

平成30年度租税教育実践成果報告書

学校名 熊本市立桜木中学校

校長名 藤澤 龍介 ㊞

1 平成30年度の実践計画

実践項目	実施月日	実践内容
○事前アンケート	6月	・租税に関する生徒の意識調査(事前)
○租税教室	7月	・租税教室講話(学年ごとに実施)
○税に関する授業(1年)	7月	・1年歴史「奈良時代の人々の暮らし」
○税に関する作品作成・提出	7月 ～夏休み	・税に関するポスター・習字・作文・標語の作成を、夏休みの課題として実施
○税に関する授業(3年)	10月	・3年公民「『公共の福祉』と国民の義務」
○一日税務課長の体験	11月	・代表生徒による一日税務課長体験への参加
○租税教室「税金落語」	12月	・落語家による税金をテーマにした創作落語
○税に関する授業(3年)	1月	・3年公民「私たちの生活と財政」
○税に関する授業(3年)	3学期	・3年総合「あなたはどうか考える？」 (税金の使い道について)
○事後アンケート	3月下旬	・租税に関する生徒の意識調査(事前)
○1年間のまとめ	3月下旬	・実践のまとめ・租税教育実践報告書の作成

(2) 租税教室

7月に、熊本西税務署の大城戸有里氏に来校していただき、租税教室を行った。この時期に、税務署の職員を招いて租税教室を開催した理由として、

- ・最初の学びの機会に専門家である税務署職員を招くことで、より分かりやすく、また理解を深めやすいだろうと考えたこと
- ・年間活動の最初に租税教室を実施することで、今後の税に関する活動への意欲と理解が高まるだろうと考えたこと

の2点があった。

租税教室では、まずレシートの消費税をもとに、いかに大きな額の税が生活の中で関わっているのかを考えさせた。次に、租税の意義について考え、DVD教材の「アナザーワールド」を視聴した。後半には、税の種類について学び、できる限り同じ負担感で税を集めるためにはどのようにしたらよいのかを、事例をもとに考える活動を行った。約90分間の租税教室だったが、生徒にとっては税について触れるだけでなく、具体的に考えて、身近なものとして捉えるための大事な機会となった。

また、今回は学年ごとに分けて実施した。生徒と講師との距離が少しでも近くなるようにし、また実感を伴ったやり取りができるように、このような形をとった。結果的には、生徒にとって分かりやすく、また受け答えがしやすくなり、生徒と講師のやり取りのある望ましい形で実施ができた。

(租税教室の様子)



(租税教室の感想から)

税金のない世界では、警察や消防署にもお金を払わなくてはいけなけれど、今の税金がある世界では、高齢者の年金や学費など、負担してくれることがたくさんあるので、とても助かっています。税金を払うのは、大変だと思うけれど、その分、助けられているんだなあと実感しました。現在は、少子高齢化が進んでいるので、大人になったら頑張って働いて、税金を納めたいです。これからもっと税について学習し、税の大切さを理解したいです。(1年生女子)

税金の種類が約50種類と聞いて、びっくりしました。税金は、今は8%の消費税の分しか払っていないけれど、大人になって住民税や所得税などを払う必要があると聞いて、どこで払うのか気になりました。税金には「公平」や「平等」の考え方がよく表れていて、見た目は違うけれど、いろいろな形があるんだなと学びました。今までは納税者といえば大人だと思っていたけれど、自分たちも納税者だと知って、他の税についてももっと知りたくなりました。(2年生男子)

私は小さいころ、消費税がなぜあるのか、何のためにあるのか分からなかったから、「無くなればいいのに」と思っていました。でも、私たちが安全に暮らすために、学校に行くために使われていることを知って、消費税は本当に大切なものだと思います。また、色々な資源を大切に使うべきだと思います。これからもっと税金を払わなくてはならなくなるけれど、「税金とかいらない」なんて思わずに大切だということを常に覚えておきます。税金が50%の国があるとは、びっくりしました。でも高いほど、世界がより良くなるのかなと思います。(2年生女子)

租税教室を通して、僕は税金の身近さを感じました。特に、僕たち中学3年生も納税者だということが印象に残りました。毎日買い物で支払う少しの税でも、1週間、1ヵ月、1年間と、日数が増えていくうちに、高くなることが分かりました。DVDを見て、確かに公務員など、所得税がなければ給料が上がるけれど、逆に日常生活に支障が出てくるので、どんなに苦労してでも払わなければならないと思いました。将来大人になって働かなければならなくなったら、税などについてももっと詳しく学んで知らなければならないと思うので、インターネットや本で、日本の税についてもっと調べたいです。(3年生男子)

税金がない世の中になったら、困らない人はいないと思うし、私も学校に行けなくなるかもしれないと知って、これまで当たり前と感じていたことも税金があるからだということに気づきました。私たちが安全に暮らすためには、税金が必要だと改めて思いました。また、税金の納め方もいろいろあることを知りました。平等で公平に分けることは難しいけれど、税金のおかげで世の中が回っているのかなと思いました。まだ難しいと感じることもあったけれど、税への興味がわき、税務署の仕事の重要さが分かりました。この租税教室で、今までより税を身近に感じる事ができたとし、自分たちのためにも税をきちんと納めないといけないと考えました。(3年生女子)

私は、消費税 10%への引き上げに賛成です。この租税教室を通して、さらにそう思いました。日本にはたくさんの借金があり、福祉などもっと充実させてほしいと思う部分も多くあるので、増税すべきだと思います。自分たちが退職して老後の生活を送るのにも年金が必要なので、日本という国が豊かで暮らしやすい国になってほしいです。今日は、今まで何となくにはしか理解できていなかった税について、制度などの知識を深めることができました。(3年生女子)

(3) 「税に関する作品」の取り組み

全学年を通して、夏休みに「税に関する作品」の作成に取り組んだ。主な作品の受賞結果、および作品応募状況は、以下の通りである。

作文の部

熊本市租税教育推進協議会 会長賞 1年 浦田 実侑

ポスターの部

佳作 1年 櫻田 昊成

標語の部

南九州税理士会熊本東支部 支部長賞 3年 松吉 陽輝
 佳作 2年 瀬下 真央 熊瀬 瑠恵
 佳作 1年 益山 舞香 板橋 香織

【作品応募状況】

	ポスター	習字	標語	作文	合計
1年	2	104	117	37	260
2年	0	86	107	39	232
3年	0	2	144	0	146
合計	2	192	368	76	638

(4) 一日税務課長体験

11月16日、「私たちの県税を考える週間」の期間に、桜木中2年生の代表生徒5名が「一日税務課長」の体験に参加した。この活動は、「一日税務課長」として税にかかわりのある仕事に直接接することで、税の意義や役割を正しく認識し、税についてより詳しく学ぶために行っ

た。

県央広域本部税務部のご協力により、「収税第一課長」「収税第二課長」「課税第一課長」「課税第二課長」「総務課長」の5つの課にそれぞれ着任し、業務概要について簡単に説明を受け、事務の決裁および軽油分析演習などの業務の一部を行った。生徒たちにとっては初めての経験だったが、業務を通して、税に関する仕事の細やかさや責任、公平性を保つことの重要性などを感じ取っていた。また、業務の後には県央広域本部の職員との意見交換を行った。

① 委嘱状の交付・一日の流れの説明



② 各税務課長からレクチャーを受ける様子



③ 決裁等の業務



④ 軽油分析演習



(一日税務課長体験の感想から)

今までは、税のことについて知らなかったこともあったけれど、一日収税第二課長をやってみて、少しだけ理解することができました。収税と聞いて、国民に税を納めさせる仕事かなと思っていただけでなく、税金を支払わない人にさまざまな方法で税を集めていることに驚きました。しかし、それも県民の税についての行政に対する「信頼」や「公平性」が失われないようにするためだと分かり、納得しました。税金によってさまざまな行政サービスができていることを理解し、豊かな国をつくるためにも、しっかり税金を納めるようにしたいです。

僕は、税務部の「総務課長」として仕事をしました。総務部では、庁舎の管理や文具の購入など、直接税に触れることはなかったものの、他の課の税の仕事が以下にやりやすくなるかななどを考えて、仕事を行わなければなりません。鉛筆を1本買うのにも決裁を行い、業務の細かさに驚きました。税に関する仕事に触れることで、税をより身近に感じ、税のことについてこれまで以上に考えることができました。

(5) 税金落語

12月10日、落語を通して納税の意義や税の大切さなどについて学ぶため、租税教室の一つとして「税金落語」を実施した。公益社団法人「熊本法人会」および熊本西税務署に協力を得て、関西から笑福亭鉄瓶氏を講師としてお迎えした。

落語では、中年の男性が酒の勢いで勤め先の脱税を暴露する小話を披露した。社長個人の費用を会社の経費に混ぜるでたらめぶりを挙げて、「やっていいこと、いかんことの違いを知らんと・・・」と語った。

落語自体を始めて経験する生徒も多かったが、鉄瓶氏の見事な語りぶりで多くの生徒たちが落語の世界に引き込まれた。落語を通して、生徒たちが脱税などの具体的な税に関する問題を身近な問題として捉えて考えることができるようになった。また、税に対する関心を高め、税金の大切さを考えるという点では、非常に有意義な機会となった。



脱税「あかんよ」 桜木中で創作落語

落語を通して中学生に税金の大切さを知ってもらった。落語家の笑福亭鉄瓶氏が、落語を通じて学んでもらう税金の大切さを知ってもらった。落語家の笑福亭鉄瓶氏が、落語を通じて学んでもらう税金の大切さを知ってもらった。

「税金落語」が10日、熊本で全校生徒約500人を笑わせた。落語家の笑福亭鉄瓶氏が、落語を通じて学んでもらう税金の大切さを知ってもらった。

脱税をテーマにした創作落語を披露した笑福亭鉄瓶さん＝熊本市東区

熊本日日新聞 平成30年12月11日(火)記事に掲載

(税金落語の感想から)

税金について、消費税などの身近な税金に関することはこれまでも知っていたけれど、「法人税」や「脱税」などのことについては、名前くらいしか知りませんでした。税金についての落語では、酔っぱらった客の会社の社長が脱税をしている話で、会社の経費で買い物をしたり、旅行をしたりしていることから、脱税がどんなものなのかということ詳しく知ることができました。また、脱税をしている本人だけでなく、それに関わっている人も脱税をしていることになることを初めて知りました。これからいろんな税金を払っていくことになると思うので、一つ一つの税はどんなものなのかを知って、正しく納税しようと思いました。

落語では、笑福亭鉄瓶さんが税金に関することを分かりやすく伝えてくださって、とても楽しい時間でした。落語については、もともとあまり分からなかったけれど、話が上手で、心の底から笑いました。

脱税の話では、こんなことがあっているのは知らず、身近なところで起こっていると思うとぞっとしました。もし、私が大人になって働いている時に、脱税やお金に関するトラブルが起きていたら、それを止められるような大人になりたいです。

税について、落語で分かりやすく説明してくださり、少し難しい内容でもところどころに笑えるところがあって、よく理解することができました。

脱税の話では、桜木中の先生の名前も登場して、オチもとても面白かったし、脱税はどれだけだめなことなのか、しっかり分かりました。来年から消費税が10%に上がるので、これからも納税者として、税の使われ方や法律を理解していこうと思いました。

(6) 税についての授業（社会科・総合的な学習の時間）

今年度は、社会科および総合的な学習の時間の授業で、税についての授業に取り組んだ。

1年生は、歴史的分野の「奈良時代の人々の暮らし」の授業で、奈良時代に「租・調・庸」の税を納めさせることになったことを学び、税を集める必要性について考えた。

3年生では、公民的分野の「『公共の福祉』と国民の義務」の授業で、国民の三大義務の一つとして「納税の義務」があることを知り、「なぜ納税が国民の義務となっているのか」について考えた。また、3学期には「私たちの生活と財政」の授業で、租税教室などでこれまでに学んだことをもとに、税の種類をまとめ、累進課税制度などの税の公平性を保つための仕組みについて学んだ。

3学期には、3年生の総合的な学習の時間に、「税金の使い道」につ

いて考える授業を行った。本校では、平成28・29年度に道德教育のモデル校として指定を受け、「考え、議論する道德」について研究を深めた。その過程で、「自分の考えを明確にし、お互いに考えを出し合って聞き合うことで、考えを深める」「いろいろな人の意見を聞くことにより、多面的・多角的な考え方に触れる」という活動を重ねてきた。今回の租税教育でも、道德教育の研究の中で培ってきた「議論する力」「意見を聞いて考えを深める力」を活かすことで、税に対する考え方を深められるよう授業に取り組んだ。

3月5日(火)実施

3年・総合的な学習の時間「あなたはどうか考える？」

授業の概要：最初に、租税についてのこれまでの学びを確認し、国家予算のうち、租税の使い道として何にどのくらい使われているのかを押さえた。その上で、次のような事例を準備し、税金の使い道としてふさわしいのかどうかを考えさせた。

ある町のメインストリートに、念願のレストランを開店したAさん。妻、中学生の息子と小学生の娘の4人家族。この町の中心駅から」からのびた中心街とあって人通りも多く、店は大繁盛していた。

しかし、その町の都市改造計画で、今までメインストリートだった道路よりも大きな道が別の場所に通ることとなり、そうなる今までのメインストリートは人通りが少なくなることが予想され、新しく造られた道路がメインストリートとなり、客は間違いなく激減することが予想される。

そこでAさんは、新しく通る道路沿いに新しい土地を購入し、店を移転する計画を立てたが、それには膨大な移転費用がかかることが分かり、途方にふてしまった。

この状況に対して、自分がこの町の政治家だとしたら、「Aさんのような個人の移転費用の補助として、税金を使うことに賛成か、反対か。」ということ投げかけた。「どちらが正しい」ということを結論付けるのではなく、賛成・反対の双方からそれぞれの考えを出し合い、考えを深め合った。

(実際の授業の板書)

租税
あなたは、どうか考える?
税金：国のお金

年度予算案
→約101兆円

- ① 社会保障 …… 38兆円
- ② 国債費 …… 23兆円
- ③ 地方交付税 …… 16兆円
- ④ 公共事業 …… 7兆円
- ⑤ 文教・科学振興 …… 5兆円

個人の移転費用に補助金として税金を使うこと
政治家の立場

賛成 ← 個人的に、良い影響を期待している
大繁盛していた、新しい道も

反対 → 店の都合、他の店

賛成の立場からは、「町の計画による影響を受けているのだから、補助すべきだと思う。」「もともと繁盛していた店だから、新しいメインストリートができてからも売り出しやすいように条件を整えるべき。」「店が繁盛することは、町全体にとっても良い影響になるはず。」などの意見が挙がった。一方で反対の立場からは、「個人的な事情に税金を使うべきではない。」「税金を個人の補助として使ったら、きりがない。」「メインストリートを造るのにも膨大な費用がかかるのに、個人の移転費用まで補助したら予算が足りない。」「他の店にも払わなければならなくなる。」といった意見が出た。結論としては分かれたものの、最後まで自分の意見に迷い、悩んだ末に自分の考えを決めた生徒が多数いた。最終的には、町のため、国のため、みんなのために、さまざまな形で集めた税金だからこそ、安易に使い道を決めるのではなく、たくさんの方の視点から多面的・多角的に考え、その使い道を決定的することが大切だ、ということで意見が集約された。

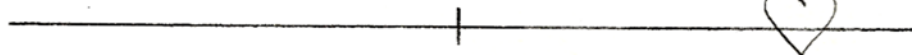
この授業を通して、税の使い道についてじっくり考えることができたのと同時に、県や市、国などが、税金の使い方を決めるために、いかに熟考を重ねているのかを感じ取った生徒も多かったようである。

(生徒のワークシートから)

◎Aさんのような個人の移転費用の補助として、税金を使うことについてどう考えますか？ あなたの考えを心の数直線上に♡で示し、理由を書きなさい。

賛成

反対



◎そこに♡を置いた理由を書きましょう。

個人の補助として使ったらきりがないから。

政治側が大変になると思う。個人は県のために使ってもらいたい。

◎今日の授業で学んだことや考えたことを書きましょう。

私はこの問題について反対を選びました。同じ意見の人でも見方があったり賛成の意見の人も聞いて最後とも迷いました。

この問題の税金の使い方についても、みんなはそれぞれ迷っているのだから、国のことを決められる議員の人たちはずいと思えました。

税金の使い方などについても、大人に任せても考えていこうと思えました。

3 平成30年度の実践成果と今後の課題

(1) アンケートの結果から

①あなたは、税がどのようなことに使われているか、知っていますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
知っている	16%	25%
だいたい知っている	60%	69%
ほとんど知らない	21%	5%
全く知らない	3%	1%

②あなたは、「税」を身近なものに感じますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
身近に感じる	38%	55%
どちらかといえば身近に感じる	41%	37%
あまり身近に感じない	19%	8%
身近に感じない	2%	0%

③あなたは、「税」は必要だと思いますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
必要である	46%	75%
どちらかといえば必要である	43%	23%
あまり必要ない	8%	2%
必要ない	3%	0%

④あなたは、家の人と「税」について話をすることがありますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
よく話をする	2%	6%
ときどき話をする	20%	15%
ほとんど話をしない	46%	45%
全く話をしたことがない	32%	34%

⑤あなたは、「税」を納めなければならないと思いますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
納めなければならない	44%	78%
納めなければならないと少しは思う	45%	22%
あまり納めなければならないとは思わない	9%	0%
全く思わない	2%	0%

⑥あなたは、「税」の学習は大切だと思いますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
大切だと思う	40%	46%
少しは思う	47%	52%
あまり大切だとは思わない	11%	2%
全く思わない	2%	0%

⑦あなたは、学校内の施設や用具、公共物を大切に扱っていますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
大切に使っている	75%	85%
あまり気にしていない	24%	15%
全く気にしていない	1%	0%

⑧あなたは、教室の電気がつけっぱなしになっていたり、水道の水が出っぱなしになっていたりしたときに、すぐに消したり止めたりすることができますか。

	6月(実践前)	3月(実践後)
すぐに消したり止めたりする	36%	48%
消したり止めたりすることが多い	53%	43%
あまり消したり止めたりしない	11%	9%
全く知らないふりをする	0%	0%

アンケートを考察すると、税に対する関心や知識、納税の意識など、1年間の取り組みの成果として、全般的に良い結果が得られたことが分かる。アンケートの①(税が何に使われているか)・②(税を身近なものに感じるか)・③(税の必要性)・⑤(納税の義務の意識)に、特に大きな変化が見られた。年間を通して、計画的に租税教育に取り組んだことで、税に関する知識が深まり、税に対する関心や意識が向上したといえる。また、アンケート⑦・⑧の数値も高まっていることから、税に関する概念や考え方として理解しているだけでなく、税金で賄われているものを大切に扱おうとする公共精神の高まりにも影響があったことが分かった。

さらに、納税の義務を知識として理解しているだけでなく、税の意義や必要性を理解したうえで、納税の義務をきちんと果たそうという姿勢が見られるようになった。これは、アンケートの数値の向上からだけでなく、ワークシートの言葉からその変化を読み取ることができた。多く

の生徒から、租税教育の実践前には「税が何のためにあるのか分からない」「税金が本当に役に立っているのだろうか」という声が聞かれたが、租税教室や税金落語、税についての授業などの実施後には、「税金によって、私たちの生活が支えられていることが分かった」「税金の種類がたくさんあることが分かった」「税金が身近なものだと感じるようになった」といった感想のほか、「納税者として正しく税を納めていきたい」「しっかりと税を納めて、豊かな国をつくっていきたい」など、これから納税者として主体的に行動しようという意欲の表れも見られた。

これらのことを集約すると、今回の租税教育の実践で生徒にみられた変容は、次の3点にまとめられる。

- ・ 租税教室や税金落語など、租税に関する活動を行うことで、生徒たちの税に対する関心が高まった。
- ・ 租税教室を行うことで、税の必要性や税の使い道などを理解し、税金によって日本の社会全体が支えられているということが理解できた。
- ・ 租税教育を通して、税についての理解を深めることで、自分自身が納税者であるという自覚が高まり、これから正しく納税しようという意識を持つようになった。

(2) 今後の課題

① 計画的・系統的な実践の推進

年度当初に、年間目標を決め、それをもとに実践計画を立てたが、なかなか思うように計画的な実践ができなかった。租税教室や税金落語、税についての授業などを行ったものの、それぞれの活動の関連性や系統が乏しく、一貫性に欠けていた。「租税教室→社会科の授業→税金落語→税について考える学習」など、時間的な間隔を空けすぎずに計画的な実施ができると、生徒にとってもより分かりやすくなったのではないかと感じた。

② 学校から家庭・地域への発信

今回の租税教育を通して、学校生活の中でさまざまな面で成長が見られたのは、前述の通りである。しかし、アンケート④(家庭で税についてのことを話しているか)の数値にあまり大きな変化がなかったように、学校外の生活や行動に変化があったとは、まだ言い切れない。租税教育の成果を社会に広く広めていくためにも、家庭生活や地域社会への繋げ方をより考えていかなければならないと感じた。

③継続した租税教育の実践

1年間の取り組みの成果はあったが、租税教育はこれで完結するものではない。中学校では、本年度の1・2年生は4月から進級し、新たに新入生を迎えることになる。進級・進学する中でも、すべての生徒が税に対する理解や関心を深められるような環境を整えていかなくてはならない。消費税増税が今年の秋に予定されており、これまで以上に税金の果たす役割が大きくなっていく。これから将来を担う子供たちが、当たり前のように税の大切さを理解し、納税者として主体的に行動できるようにするために、租税教育の質を高めながら継続的に取り組む必要性を感じた。